矢作川流域圏懇談会通信

H29 川部会編 vol.3

発　行　日：平成 29 年８月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 40 回川部会WGを開催しました！

７月 18 日（火）に第 40 回川部会WGが豊田市職員会館 会議室にて開催されました。今回の WG では、流域連携の一環として矢作川研究所の洲崎主任研究員をお招きし山部会での取り組みを紹介していただいたほか、吉橋研究員をお招きし“聞き書き”の技術について話題提供をいただきました。

日　　時：平成 29 年７月 18 日（火）15:00～17:00
会議場所：豊田市職員会館　会議室
参 加 者：14 名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

1.本日の話し合いでわかったこと、決まったこと

■山村再生担い手事例集の紹介と今後の取組み

矢作川研究所の洲崎主任研究員から、山部会で取り組んでいる「山村再生担い手づくり事例集」を紹介していただき、川部会においても、この取り組みに協力・参加していくこととなりました。

【山村再生担い手づくり事例集づくりの目的】

- 山部会では、流域の山の問題を「人と山村の問題」と「森林の問題」に分けて整理しました。水源の森づくりを担う山村で過疎化と少子高齢化が進んでいるのが「人と山村の問題」です。
- 解決の糸口としてH25年度から、矢作川流域で農業、林業、定住支援などの中山間地振興に携わる団体・個人の活動情報を共有し、そのネットワークづくりを支援する「山村再生担い手づくり事例集」を毎年作成しています。
- 取材先では、会のモットーや設立から現在に至るまで変化したこと連携している団体・専門家・自治体など山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動などを聞き取りしています。

【今年度の活動方針について】

- 取材者、取材先とも川や海の関係者を増やし、「流域再生担い手づくり事例集」の作成をめざし、部会間連携活動の一環としたいと考えています。

■関係性を築く聴き方について

矢作川研究所の吉橋研究員から、人と人のつながりを築く手法として「聞き書き」と「問わず語り」について紹介をしていただきました。

●聞き書きについて

- 聞き書きとは、「聴き手」が「話し手」に話を聞いて文章化したものです。
- わからないことは積極的に質問すること、話し手の言葉を一字一句書き起こして、文章を整理して、「聞き書き」作品を完成させることが重要です。

●問わず語りについて

- 語りの場として時間と場所を設定して、語り手に敬意を持ち、語り手の言葉を壊さず、大切にして、丁寧に“辿る”ことが重要です。
- 語りの時間は15分で区切り、その間は「聴き手」に徹すること、自分の言葉をさしはさまず、沈黙も語りの一部として、語り始めるのを待ちます。

3.意見交換

●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。　（• 意見　➢回答）

- 「問わず語り」の語りの時間は 15 分が適当なのか？　30 分ほどしゃべってもらうのはどうか？　また、成果品は一字一句書き起こすことが必要か？（本守）
  - ➢ 時間は 15 分と決めている。時間を区切ることに意味があると思っている。成果品は、そのまま利用できるものにはならないこともある。内容によっては解説なども必要となってくると思うが、その評価が得られていない。（吉橋）
- 「問わず語り」は一人で聞くのがよいのか？例えば、二人で話を聞くケースもあるのか？（本守）
  - ➢ 複数で聞いたケースはない。その場合は、1 名は聞き役に徹するので良いのではないか。（吉橋）
  - ➢ 山村再生担い手づくり事例集は 2～3 名体制で取材している。1 名が主担当で質問するが、他のつきそいの人も補足的に質問することがある。その場合、自分と違った感性の質問が多く、参考になる。（松井）
  - ➢ 私も 1 回参加させてもらって、そのときは 3 人でうかがった。そのときも 15 分間、話を聞かせてもらった。その内容は事例集に載せなかったが、いい話が聞けた。事例集は作り方が確立されているので、とてもよい内容と思う。（吉橋）
- 聞き手、語り手は住んでいるところ、方言、世代、性別が異なるとき、話を引き出すことが難しいケースがある。特に高齢の方のインタビューは難しいと思った。そのあたりのコツはあるか？（野田）
  - ➢ そのコツを全て放棄したのがこの問わず語りのやり方である。聞き出してやろうとなると頑なにしゃべらないことが多い。高齢者であるほど語りが始まると、心に響く言葉が聞けることがある。（吉橋）
- 16 分目からの取り扱いはどうしているか？
  - ➢ 16 分目からは対話形式で話を聞いており、語りのみは 15 分で区切ると決めている。全体の情報を知るためには 16 分目以降の話は要約してまとめている。（吉橋）
- 洲崎さんからの呼びかけのある流域再生事例集に川部会が参加するということについてどうするか。（内田）
  - ➢ これからの事例集はもっと人のつながりを強化したい。流域の中で新しいコラボレーションをしたいという意向である。事例集の取材の中で『問わず語り』をやってもらってもよい。（洲崎）
  - ➢ 地先モデルの一環として取り組むのでよいと思う。（本守）

（2）振り返り

よかったと思うこと：社会学という新しい分野の話が聞けた。/山部会が取り組む事例集づくりの内容（目的、項目、心得、工程、計画）を簡潔に説明いただき、要点を掴むことができた。/聞き書きの方法を手身近に講和いただき、上記の取材・記事づくりの参考になった。

今後取り組んでいきたい活動など：問わず語りの方法から矢作川のけしきづくりが進められるが、山・川・海のつながりにも同方法から、かつての物・経済・文化・情報の循環の姿の復元ができるのではないかと思う。

今後の流域圏懇談会の予定

■第 41 回川部会 WG　※詳細日時は ML にて決定します。

日時：平成 29 年 8 月 23 日（水）13：00～　　場所：豊田市職員会館

内容：〈地先モデル〉①川関係の活動団体リストについて

②（仮称）流域連携担い手事例集について

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　調査課　服部

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。